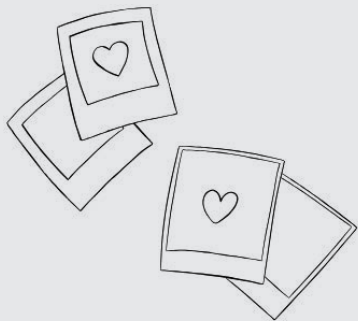
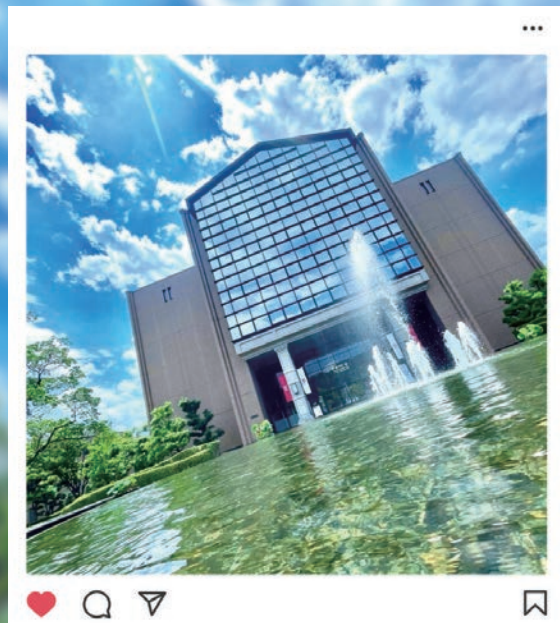






P.23～職員数珠つなぎ
「瀬田Instagram」運用記



— 宗教部報 りゅうこく No.110 目次 —

巻頭言「自分らしく生きることの幸せ」	兵庫一也	1
伝道部法話「おやごころ」	長門慈海	5
もう一つの日米親善人形	部矢祥子	9
龍谷大学 中井玄道が願った、子どもたちの日米理解		
連載「《イケズ》と《気遣い》のはざままで	泉 文明	19
—京ことばの心髄にせまる—		
職員数珠つなぎ「瀬田Instagram」運用記	山田美由紀	23
仏教パズル	(出題) 小川 信正	29
法要・行事の振り返り		31
表紙写真解説	守 宗真	38
顕真週間マスコットキャラクター「ろうそくん」		
BOOK GUIDE		40
編集後記		46
絵しりとり		

絵しりとり作成 小西智子

言 頭 卷

自分らしく生きることの幸せ



也 一 庫 兵
(経済学部長)

夏にはTシャツ短パン、スーツなんて着ないことで知られている
経済学部長兵庫です。

私は中学生のときにジャズにハマリ、それを入り口にソウル、ファンクなどブラックミュージックにどっぷりハマりました。その途中、ジャズの歴史なんかを学ぶ中でアメリカの「公民権運動」というものに興味を持ちました。高校時代か大学時代か忘れてしまったのですが、吉田ルイ子さんの「ハーレムの熱い日々」という書籍には感銘を受けました。ブラックミュージック好きだけではなく、「差別」に関心のある学生にはぜひ読んでほしい本です。

アメリカで同時多発テロが起きた年に、私は博士号 (Ph.D.) を取るためにニューヨーク州のロチェスター大学に留学しました。ロチェスターという街は、公民権運動の歴史にとっても象徴的な場所

です。奴隷解放運動家のフレデリック・ダグラスや、一ドル硬貨にも描かれている女性参政権運動家のスーザン・B・アンソニーが活動していた街でもあります。ところが二十世紀になっても、アフリカ系住民に対する差別や住宅の隔離、就職の機会の制限が強く残っていたといえます。「北部だから差別はない」というイメージに反して、実際には深刻な不平等があったことを知ったときには、本当に驚きました。

近代の人権の一つに「自己決定権」というものがあります。自己決定権とは、自分の生き方や選択を自分自身で決める権利のことです。たとえば、どんな仕事につくか、誰と暮らすか、どんな信念を持つかといったことを、他人や国家に強制されず、自らの意思で選べるという考え方です。現代の人権の基盤であり、我々にとっては当たり前のことに思えます。過去のロチェスターではこの自己決定権に大きな制約があったのですね。

経済学では「人は自分の好きなことや望み（選好）をもとに行動する」と仮定します。つまり、買い物や仕事の選び方は一人ひとりの意思にゆだねられていて、その意思を尊重することが前提になっています。これは単なるモデル上の便利な仮定ではなく、「自分の生き方は自分で決める」という自己決定権の考え方とつながっています。

しかし歴史を見れば、すべての人が自由に自分で決められたわけではありません。アメリカの公民権運動は、黒人の人々が「どこに

住むか」「どんな学校に通うか」「投票するかどうか」といった基本的な自己決定を奪われていたことへの抵抗でした。女性参政権運動も同じです。投票や教育、仕事の選択は、自己決定権の核心でした。

性的指向や性自認 (SGL) の問題も同様です。誰を愛するか、どのような性で生きるかは、究極的にはその人自身が決めることです。しかし偏見や制度の壁があり、多くの人が自由に決めることを妨げられてきました。ハーヴェイ・ミルクの伝記的な映画「ミルク」を見てほしいです。三人のドラァグクイーンのロードムービー「プリシラ」も大好きな映画です。日本では東小雪さんや石川大我さんなども、まさに「生き方を自分で決める権利」を社会に訴えた人々です。

ドイツの牧師マルティン・ニーメラーは、ナチスの時代に「誰かが弾圧されても声を上げなければ、最後には自分も守られなくなる」と語りました。自己決定権は一人ひとりの問題であると同時に、社会全体の問題です。誰かの自由が脅かされるときに沈黙してしまえば、いずれ自分の自由も失われてしまいます。

行動経済学は、人が必ずしも合理的に決められるわけではなく、思い込みや状況に左右されやすいことを示しました。また、アマルティア・センの「ケイパビリティ・アプローチ」は、ただ自由があるだけでなく、「本当にその自由を行使できる力や環境」が必要だと説きました。教育や情報、経済的な基盤があって初めて、自己決定権は実質的なものになるのです。

さて、最近の社会について皆さんはどう考えますか。私はいろんな場面で怖さを感じます。私は自分が完璧な人間だとは決めています。「差別」は私の中にも潜んでいると思います。だからこそ、自己決定権を守り、誰もが自分らしく選べる社会をどう作るかが大切になると思います。

自己決定権は、奪われた歴史があるからこそ、その尊さが際立ちます。そして、声を上げ続ける人々がいたからこそ、私たちは今より多くの選択を手にてきています。未来は決して悲観するものではなく、むしろ「誰もが自分らしく決められる社会」を少しずつ築いていけるはずです。

自分の人生を自分で決められること。それは一人の幸せであると同時に、社会全体の力にもつながります。自由は人から人へと広がっていきます。そのバトンを次の世代に渡していきたいと皆さんも思いませんか。

伝道部法話（二〇二四年一〇月一五日）

「おやづゝろ」

長門 慈海

（伝道部二回生）



皆さん、おはようございます。私は伝道部二回生の長門慈海と申します。ジャケンで有名な広島県の出身です。頭真週間の朝法話のご縁をいただき、とても緊張しています。今朝は、両親がつけてくれた私の名前についてお話しさせていただきますと思います。

皆さんは自分の名前の意味について深く考えたことがありますか？ 私の名前は慈しみの海と書いて「いつみ」

と読みます。小学生の頃、私は自分の名前をあまり好きではありませんでした。というのも私の名前を初めて見た人が、よく男の子だと勘違いするんです。難しい漢字が二つ並んでいるので男の子っぽい名前に見えたみたいなんです。加えて当時、「習字」を習っていました、習字では左端に名前を書きますよね。しかし私の漢字は少し難しくすぎました。いつも名前を書くのが憂鬱で、「なんでお父さんとお母さんはこんな難しい名前をつけたんじやろう。もっとかわいい名前がよかったのになあ」と思っていました。小学校六年生の頃、自分の名前の意味を保護者に聞いて来るといふ授業があつて、同級生達はその課題が出されてすぐに、「私の名前の意味はね…」、「僕の名前の意味はこうなんよ」、と話していました。ですが、私は

自分の名前の意味を、それまで考えたことがありませんでした。「難しくてとてもかわいいとは思えない私の名前には、どんな意味があるんだろう。」私は家に帰ってすぐに父に名前の意味を聞きました。すると父はとっても嬉しそうに話してくれました。

「慈海ちゃんの名前はね、海より広いお慈悲の心を持った子に育ってほしいっていう思いが込められとるんよ。一度はね、仏様の智慧からとって智慧ちゃんとか、そういう名前にしようと思ったこともあったんじゃないけど、慈海ちゃんの名前の『慈海』っていう字が一番しっくりきてね」と顔をほころばせて話す父と、隣でこちらもまた嬉しそうにニコニコと微笑む母の姿を見て、ああ私の名前は家族の愛情がたっぷり詰め込まれている名前なんだと初めて実感したのでした。

その数年後、曾祖父の誕生日に何かプレゼントをあげようということになりました、家族と話し合って、私の習字の経験を生かして「書」をプレゼントしようということになったんです。どんな字を書こうかと、家族で一生懸命に必死になって考えました。そんな時、父が提案した言葉、それが「慈光」という言葉でした。父は優しく説明してくれました。

慈光はね、

慈光はるかにかぶらしめ

ひかりのいたるところには

法喜をうとぞのべたまふ

大安慰を帰命せよ

っていう、親鸞聖人のご和讃の言葉なんよ。阿弥陀様のあたたかい、どこにもどこまでも照らしてみんなを救う光なんよ。ほら慈海ちゃんの「慈」と一緒じゃ。慈海ちゃんにぴったりの文字じゃ。

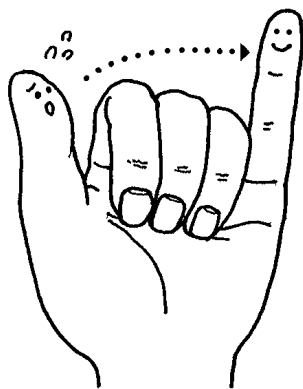
そんなことを言われ、私も嬉しくなつて、ひいじいちゃんの前で完璧にうまく書いた慈光の字を見せて、このご和讃を暗記するんだと言つて、父と何回も何回も繰り返し読んで覚えようとしていたのをよく覚えています。その頃にはもうかわいひ名前がよかつたなどか、この漢字難しすぎるよ、なんてことは思わなくなっていました。ひいじいちゃんにプレゼントした書の掛け軸には家族の愛情がこもつた私の名前を大きな字で書きました。

「慈光はるかにかぶらしめ」というのは阿弥陀様の慈悲の光明は遙か隔たつたところからでも私たちのことを照らしてくださいという意味です。慈悲の光明、これはよく「おやごころ（親心）」に例えられます。私たち一人ひとりを自分の子どものように見てくださる阿弥陀様は、時に「おやさま」と呼ばれます。愛情がたっぷり詰まつた私の名前なのに、かわいくないとか難しすぎると言つてその親の思いからそつぽを向いてしまつていた。そんな「おやごころ」に気づけない私のように、人は阿弥陀様の大きな慈悲に気づくことができないどころか、背を向けてしまいます。

親指と小指のたとえをご存知でしょうか。皆さん左手でも右手でもいいです、手を出してください。そうしたらグーの手をして小指と親指を出してください。小指を見てください。親指に対してそつぽを向いていませんか。これが私たちの姿です。対して親指は小指の方を向いています。これが、阿弥陀様がそつぽを向く私たちに、「あなたから目を離さずにはおれない、救わずにはおれない」とはたらかかけてくださっている姿を表します。

「光のいたるところには 法喜をうとぞのべたまふ」とは、この慈悲の光明に気づいたとき、知らず知らずのうちに背を向け遠く突き放していた阿弥陀様のおはたらきを身近に感じられることなんだなあと味わわせていただきました。

私は、自分の名前の由来を聞いて感謝の気持ちでいっぱいになりました。家族からの愛情が私の心をじんわりと温かく包み込んでくれるように、阿弥陀様の慈悲の光はどんなに遠く離れていてもあなたを救わずにはおれないとはたらきかけてくださっています。



イラスト：宗教部 小西

もう一つの日米親善人形

龍谷大学 中井玄道が願った、子どもたちの日米理解

部 矢 祥 子

(本学非常勤講師)

青い目の人形

アメリカからもたらされた人形のこと、知っている人もいるのではないでしょうか。

大正一〇（一九二一）年に童謡「青い眼の人形」（野口雨情 作詞、本居長世 作曲）が作られました。太平洋戦争時に歌うことが禁止されましたが、今でも歌われることがあります。

また昭和二（一九二七）年にアメリカから一二七三九体の人形^{いちま}Ⅱ青い目の人形が贈られ、日本から五八体の市松人形^{いちまつ}を贈りました。この日米親善人形の贈答を行ったのは、アメリカ人宣教師のシドニー・L・ギューリック（一八六〇—一九四五）と日本財界重鎮の渋沢栄一（一八四〇—一九三二）でした。青い目の人形は、日本各地の小学校や幼稚園に分配されましたが、戦時中に敵国人形となり多くが処分されたことはよく知られています。

もう一つの日米親善人形

けれども、大正一四年に中井玄道（一八七八—一九四五）がアメリカの子どもたちに雛人形一式を贈り、昭和三年にジェシー・M・シャーウッドから日本の子どもたちに人形が贈られてきたことを知

る人は少ないでしょう。

中井は、明治三五（一九〇二）年に開教使として渡米し、浄土真宗本願寺派シアトル別院の基礎を築き四〇年に帰国。大正九年から昭和四年まで龍谷大学教授として真宗学を講じました。シャーウッドは、ボストンで暮らすイギリスからの移民二世。熱心な親日家でボストンに日本協会を作りました。

筆者は「米国の日米親善使節絵葉書 京都仏教児童博物館」と記された封筒入りの絵葉書一〇枚一組と、これに同封された「アメリカ生れのお人形のはなし」「米国の日米親善使節 日本の児童へ贈られた人形」「アメリカのお雛さま 日本の子供達へのお使」と題した三種のリーフレットを所持しています。このリーフレットをもとに、中井とシャーウッドが行った人形贈答の経緯をたどり、絵葉書を用いてアメリカから贈られた人形を紹介します。

アメリカへ贈った人形

大正一四年四月、シャーウッドは龍谷大学の中井に「両国の子どもが仲良くなるよう、仏教徒から援助をいただき、子どもたちにお雛様を一組贈って下さいませんか」と手紙を書きました。

中井は『中外日報』（宗教新聞）や『親鸞主義』（月刊誌）を通じて人形購入の寄付金を募り、同年九月に立派な雛人形が作られました。寄付金額、人形の制作者（京都の奥山弥三郎。一八八九年創業奥山人形店の初代。現、京人形清甫）、運送費などがわかっています。

人形は子どもたちに代わる親善使ですから、盛大な送別会が開かれました。会場は京都女子高等専門学校（現、京都女子大学）で、

この時の写真も遺っています。一〇月、お雛様はアメリカの子どもたちに話す挨拶文や関税を携え、神戸港から米国船プレジデントマツキンレー号に乗り旅立ちました。

翌年一月、人形はシアトルを経由してシャーウッドのもとに到着。四月に催された雛祭りは、ボストン中から子どもも大人も集まって大盛況でした。なおアメリカの子どもには、お雛様が話す日本の子どもの言葉がわからないので、シャーウッドが英語で話し聞かせました。アメリカ全土から雛人形貸出しの要望があり、人形はアメリカを巡回して歓迎を受けました。人形の保存・公開場所は、多くの申し出があった中でボストンの「児童博物館」に決まりました。

アメリカから贈られてきた人形

シャーウッドの尽力で、お礼の人形が御大典ごたいてん（昭和三年一月の昭和天皇即位式）に合わせて贈られてきました。六月、ボストンから日本軍艦尻矢しりやに乗せられ出航。七月、横須賀を経て京都の中井のもとに到着。一〇月に歓迎会を催した後、各地を巡回しました。

人形は三〇体余りで、アメリカの歴史や文化・生活が学べ、日本の雛飾りに倣なまって五段の雛壇に配置するものでした。このうち二二体が一〇枚の絵葉書になっています。どのような人形だったのでしょうか、順に見て行きましょう。

絵葉書になった人形たち

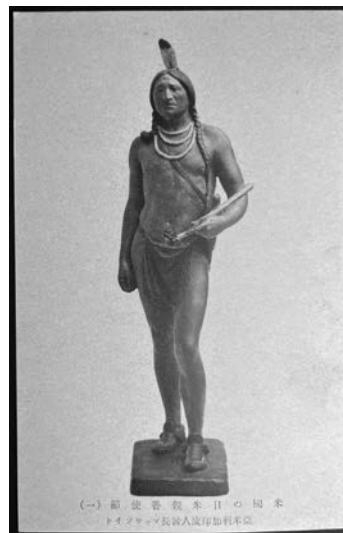
最上段の中央にマサソイト（絵葉書1）、左にワシントン（2）、右にリンカーン（3）が配置されました。



絵葉書3



絵葉書2



絵葉書1

マサソイト（一五八一―一六六二）は先住民ワンパノアグ族の酋長^{しやう}。ワシントン（一七三二―一九九）は初代大統領でアメリカをイギリスの支配から独立させ、リンカーン（一八〇九―一六五）は第一六代大統領で奴隷解放を行いました。

マサソイト人形は、長い髪を編み、頭に鷲^わの羽根飾り、首にビーズのネックレス（先祖や土地との繋がりを表す）を付け、着衣は腰布だけでモカシン（革製の靴）を履^はいています。手に持っているのは煙管^{ビースパイプ}。これを入植者と回し喫^のみ、親睦を深めて争わなかったことを約束しました。ワシントンは、剣^はを佩^はき、コート（下襟^{ラベル}と袖口にボタン）、ウエストコート、膝丈ズボンを着用した軍服姿。現存する彼の軍服（二七八九〜九九年まで着用。スミソニアン博物館所蔵）とそっくりに作られています。リンカーンは、ダブルブレストコート、シヨールカラーのシングルブレストのベスト、ズボンを着用し、ダイヤモンドポイントの蝶ネクタイを締めています。彼が実際によく着ていたスーツ姿です。なお顔に顎鬚^{あごひげ}がなく、人形は彼の「一八六〇年頃（大統領選挙前）」の姿を留めているように思えます。

二段目の左に配置されたのは、ジョン・オールデンと妻のプリシラ人形（4）。

オールデン（一五九八―一六八七頃）は、一六二〇年にイ



絵葉書4

絵葉書5



絵葉書6

ギリスから出航したメイフラワー号の乗組員。プリシラ（二六〇二—八五頃）は乗客の一人。彼らはプリマス（現、ボストンの南）に上陸。ヨーロッパからの初めての入植者です。二人の結婚の経緯は、『ロングフェロー（一八〇七—八二）の『マイルズ・スタンディッシュの求愛』に記されています。

オールデン人形は、垂れ衿付きの上衣、ニッカーボッカー型のズボン、外套を着用し、つばが広くクラウンが高い帽子を持っています。プリシラは、広い垂れ衿の上衣、ふつくとしたスカート、エプロンを着け、頭を頭巾で覆い糸車で羊毛を紡いでいます。両者は清教徒姿です。

三段目の右には、アメリカ北東部ニューイングランド地方の百姓一家を表す、祖父母と孫（五）、母と赤ちゃんと老女中の人形（六）を配置。

祖父はオーバーオール姿で二本爪の熊手^{レイキ}とバケツを持っています。孫が縫^{すが}りつき、側^{そば}に家畜の豚と鶏もいます。祖母はパッチワークキルトの寝具を作っています。パッチワークキルトは、イギリスで発祥しアメリカ移民によって発展しました。母と老女中はアップルパイを作っており、その横で赤ちゃんが泣いています。アップルパイ作りもイギリスから伝わったものです。

四段目は、建国

(二七七六年)頃から一七〇余年間の、女性服の変遷を表した八体の人形〈7・8〉。



絵葉書7



絵葉書8

一八世紀のアメ리카上流階級の女性服に、ヨーロッパのロココスタイル（コルセットで胸を締め付け、パニエでスカートを膨らませ、装飾に華美なレース・リボン・花飾りなどを用いる）がそのまま取り入れられていたこと、そして一八世紀後半以降、ヨーロッパの服飾は資本主義の発達や自由思想に伴って簡素化しますが、アメリカの服飾もまた気候・風土・社会・経済に適応しながら変容して行ったことが窺えます。

最下段は、ボーイスカウトとガールスカウト人形（9）。



絵葉書9

ボーイスカウトは一九〇八年、ガールスカウトは一九一二年にイギリスで創設されました。

ボーイスカウト人形は、ボタン留めのシャツとジャケット、パンツ、キャンペーンハットを着用し、軍人的な外見です。ガールスカウト人形は、プリーツスカート、ベレー帽を着用。多目的に使用できたネツカチーフを巻いています。

そして、赤ちゃんを背負った先住民の婦人（10）。



絵葉書10

編んだ髪にヘッドバンド、大判の毛布（ストライプ・楔形・菱形模様を織り込んだ）を着用し、モカシンを履いています。

人形は著名な彫刻家によって作られ、大変高価なものが含まれていたことがわかっています。

人形のゆくえ

昭和三年に中井は「京都 仏教児童博物館」を設立しました。けれどもまだ建物はなく、龍谷大学大宮図書館の一室を事務室にしていました。昭和六年、ようやく円山公園の一角に建物が建設され、人形はここで保存・公開されました。紹介した絵葉書は、開館初日の来館者に記念品として配られたものとわかりました。

しかし、昭和二〇年に中井が死去。五七年に博物館は閉館。今は建物もありません。

ところが令和四（二〇二二）年秋、龍谷ミュージアムで開催の「博覧―近代京都の集め見せる力―」で、アメリカから贈られた人形が五体展示されました。このうち、リンカーン、ワシントン、オール

デン人形の三体が本学大宮図書館で所蔵・保管されていることがわかりました。そして日本から贈った雛人形も「ボストン^{オールド・インズ}子供博物館」で所蔵されていることが確認できました。

また冒頭で記した昭和二年の日米親善人形^{ミューシウム}青い目の人形も、三〇〇体余りが戦禍を免れて現存しており、日本から贈った人形も四八体現存していることがわかっています。

日米親善人形から学ぶこと

中井はシャーウッドとの交友を通じて、京都に国内外・古今にわたる各種の教育資料を蒐集展観する子どものための博物館を作り出した。この開館のきっかけになったのが、小稿で紹介した両国間の人形贈答でした。両者は「国際親善は子どもから」という信念を持っており、人形と子ども博物館を通じて子どもたちが親善を結び、相互理解や知識の交換ができると考えたのです。人形の贈答には、互いの国の歴史や文化・生活を知り、互いをよく理解し合って永久に親しくしましょうという趣意があったのです。にもかかわらず、日米は戦争を起こしてしまいました。

私たちは本学に所蔵されている人形を縁に今一度、日米関係についてよく考え、平和への理解を深めなければならぬでしょう。

参考

・龍谷大学 龍谷ミュージアム 和田秀寿編『特別展 博覧—近代京都の集め見せる力—』二〇二二年

京ことばの心髄にせまる

と《気遣い》のはなびらず

《イキズ》



泉 文明

(国際学部教授)

第9回

はんなり——京ことば

いわゆる京都的なことばの一つに「はんなり」がある。

いかにも京都らしい、美しくゆかしい響きで、心地よく包んでくれる。

この「はんなり」が語源となっているものの一つに【京都ハンナリーズ(ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(B.LEAGUE))に参加するプロバスケットボールチームのひとつ。本拠地は京都府京都市。】の存在がある。このチーム誕生以前は、全国的には、この「はんなり」ということばは、「知る人ぞ知る」という感が有り、京都らしさを代表することばの一つであることは、あまり知られていなかった。しかし、現在は同チームの活躍と京都ブームのおかげで着目されるようになってきた。

『日本方言大辞典』には、この「はんなり」についての記載に

(一) はでなさま。陽気で華やかなさま。明るくて晴れやかなさま。(京都を中心とした近畿)

(二) 明瞭めいりようなさま。(香川)

(三) あっさりしているさま。(京都市)

とある。どれも言っているが、いずれも「はんなり」の特徴全てを言い尽くしているものではない。

おそらくは一義的には、衣装やインテリアなどの外観や色合い、ハーモニーと言った、視覚に訴えかけるモノを評価することにあるものと思われる。ここで、強調して付け加えておかねばならないことは、「目立っている」と言うことではなく、「上品で、明るくはなやかな様子」であるということである。そういう意味では「けばい」の反義語(反対語)と言える。

京都では他家の娘さんを褒める場合に、「はんなりしたお嬢さんどすな〜」というように表現することがある。

では、この場合、このお嬢さんの何を褒めているのであろうか？「容貌容姿が美麗であること」を言っている場合がもちろん考えられるし、このルックス・見た目のことを指すケースが最多かも分らない。しかし、私が知るところの、この場合の表現には、他に、表情や身のこなしや立ち居振る舞い、ことば遣いなど、いわゆる淑やかさ、行儀の良さ、落ち着いたたたずまい等、その全体像から醸し出される上品さ・やさしさ・清楚な雰囲気・明るさ等のイメージを称えているものが多いということである。私見では、前項のルックスのことよりも、後項の人となりと言っているケースの方が多いように思われる。

「はんなり」ということばのもつイメージと意味としては、「上品で華やかで、しつとりとした様」「派手ではないが、地味過ぎることもない」「どこことなく品があり、優雅さが漂う様子」「柔らかく、穏やかな雰囲気」として説明できると思われるし、外見上の様相にとどまらず、調和やバランス、ハーモニー等々との取合わせ組合わせによる総合的な評価といえそうである。この「はんなり」は、他にもいろいろ使われる。例えば、料理の盛り付けや、お茶と菓子の組合わせ、TPOに合わせた着こなしや、その場にふさわしい話題の選定などが、「過不足なく適切にできる」ということになる。こゝと衣装に関しても、単に「いい服」「いい着物」ということよりも「この訪問着にこの帯」「トップにこのジャケットなら、ボトムにはこれ」という具合にバランスやTPOに合わせた感覚を言う場合が多い。

「京の着倒れ」「浪花の食い倒れ」「江戸の履き倒れ」とは、よく知られた故事ことわざである。「はんなり」は、もとより衣装との関りも深い。「京の着倒れ」と言われるのは、悠久の皇都京都には、おめかししたり、一張羅を大事にしたり、内着と外着の別が有ったり、祭など行事が多かったりと、(いい)服を着る機会が古来多かったこと、(いい服を着れば)見てくれる人が少なからず居た、という環境が有った。専門職の衣装が細かに分別されていたこと(僧侶の服・神官の服・儒者の服・薬師(今で言う医師)の服・茶人の服・華道家の服・芸妓舞妓の服等々……)なども、此の地の衣装文化を発展させていった。

京都の伝統産業の一つであり、京友禅・西陣織に代表されるように「京の着倒れ」というのは、このような史的・文化的・社会的・民俗学的な要素が重層的に絡み合って出来上がったものである。こ

のように、もともとは「着物の持つ艶やかさ・色合い・季節感」が、「はんなり」ということばを生む礎(いしじ)となったと思われる。

ここに見るように「はんなり」は、京都の伝統文化や美意識を象徴するような存在であるだけでなく、此の地で生抜くための、聡明さ・したたかさ・調和性・センスなどを包含した、懐の深いことばである。



(次回【第十回】に続く)





「瀬田 Instagram」運用記

山田 美由紀

(瀬田事務部)

ある日、宗教部から突然の電話がきた。樹心館の壁紙貼り替えの話かと思いきや、原稿の依頼だった。学生以来の夏休みの宿題になるなど正直覚悟した。内容は特に問わないと言われたが、「瀬田のSNSの取り組みとかはどう？」と例に出してもらえたことが素直にうれしかった。そのときから私の中でテーマは決まっていた。

紡がれる縁、広がる輪

「投稿、見たよ！写真もすごくよかった！」

「この活動、取り上げてくれてありがとうございます！」

そんな声をかけてもらうたびに、喜びとやりがいを感じる。公式SNS運用チームのメンバーとして活動している私にとって、それは嬉しい瞬間だ。私たちは、瀬田キャンパスの魅力を発信するInstagramアカウント「龍谷大学 瀬田キャンパス（通称…瀬田Instagram）」を通じて、日々、多くの方と繋がる機会をいただいている。

「瀬田Instagram」は、瀬田キャンパスが持つ豊かな自然や瀬田キャンパスならではの魅力、そして何よりもそこで学び、活動する学生たちのきらきらした姿を、写真や動画で伝えることを目的に運用し

ている。四季折々の景色、サークル活動や龍谷祭などイベントの賑わい、真剣な眼差しで教育・研究に取り組む学生たち。一つひとつの投稿は、このキャンパスで過ごす私たちの「今」を切り取ったものだ。

先日ようやくフォローワーが千人を超えた。とはいえ、やっと千人。喜ばしい一方で、もっと多くの方に届けられるよう、これからが本番だと気を引き締めている。

この活動を通して、感謝する瞬間が多々ある。大袈裟に聞こえるかもしれないが、特に感じるのは、このSNSの運用は学生や教職員、そして卒業生まで、さまざまな立場の人々との繋がりによって支えられているということだ。投稿の元となる情報は、瀬田キャンパスの学部の特徴ある授業や研究室のユニークな取り組み、学内のイベントや活動報告、キャンパスの新しい施設・サービスの情報、そして何よりも学生たちが自ら取り組むリアルなキャンパスライフの様子だ。

ありがたいことに、今では教職員など多方面から「こんな内容、投稿ネタにどうだろうか？」と情報が寄せられるようになった。

時には、投稿に対する反応からヒントをもらうこともある。

この夏、全学一斉休暇前にアカウントのお休み投稿に合わせて自分たちの目に映る「夏らしい瀬田キャンパス」を写真に収め、Instagramに投稿したところ、「こういう日常の風景いいですね」「懐かしい」といった温かいメッセージがアカウントに寄せられ、「いいね」の数はいつもの倍近くになった。

こうした瞬間は、私たちの活動が、単なる情報発信に留まらず、人々の心に寄り添い、共感を呼ぶものであることを教えてくれる。

日常の中の気づき

SNSを運用していると、何気ない景色や出来事がより記憶に残るようになった気がする。瀬田キャンパスに異動してまだ一年半も経っていないが、日常の中で得る気づきが日々増えている。

ある日、樹心館前に植えられている芝生を見ると、ところどころ茶色くなっていた。私の所属部署の管轄のため「水やりが多いのかな？」と話していたのだが、数日後、農学部が先生が「この芝生は病気に罹っていますよ」と窓口で教えてくれた。早速造園業者に来てもらい薬を撒くと、みるみる元気になっていった。自然科学系の学部を有するキャンパスの強み……！と心の中で拍手を送った。

夏にはガラス張りの自動ドアに気づかず、突進してドア下で気絶しているクワガタが毎年数匹現れる。清掃業者の方が大事に窓口に届けてくれる。今年の夏は少しその数が減り、異例の猛暑が与える自然への影響を身近で感じた。

また、木々で囲まれている瀬田キャンパスにいくと、街の喧騒から離れ、鳥や虫、風の音がはつきりと耳に届くようになった。それによって感じる四季はなんとも言葉では言い表せない、心地よいものだ。

こうした私が感じる何気ない日常の発見は、投稿するまでには至らないが、このような場で紹介する機会をいただけたことはありがた

たい。

SNS「中の人」のはなし

「瀬田Instagram」のチームは、瀬田キャンパスの異なる部署に所属し、それぞれ個性や強みを持つメンバーで構成されている。写真撮影が得意なメンバー、色んな視点で投稿ネタを考えてくるメンバー、画像の加工が得意なメンバーと様々だが、このチームとはとにかく明るく仲が良い。そんな彼らは、この大学と「瀬田Instagram」に対する熱い情熱を持っている（と信じている）。

最年長である私自身、メンバーに教えてもらうことや気づかされることがたくさんある。

フォロワー数が伸び悩んでいたとき、メンバーが「Brand Center（学内向けイントラサイト）でアカウントを紹介してはどうですか？」と提案してくれた。少し小恥ずかしい気持ちを悟られ、メンバーのみんなに背中を押されながら紹介したところ、教職員を中心にフォロワーを増やすことができた。その他、日々の中で各自アンテナを張り、私が気づけていない情報をチーム内で共有してくれている。

担当となった当初は、事務局でもある私自身、少し気負いがあったが「全てを一人で背負う必要はない」ということを教えてくれた。みんなのアイデアや意見に耳を傾け、一緒に挑戦すること。安心して自由に発言できる環境を整えること。それこそが、私が求められる役割であり、みんなが主体的に活動することが最も重要なことなのだと思う。近年部署横断型のワーキングが多いが、どの活動にも

共通する当たり前のようで大切なこと、なのではないかと思う。

仏教の教えに「和顔愛語」という言葉がある。深草キャンパスの「和顔館」という名称にもつながる言葉だ。和顔愛語は、「和顔」はやわらかな顔、「愛語」はやさしい言葉。文字通り、笑顔で愛情のこもった言葉で話すこと。

メンバーはいつも自然とそうやってチーム内でコミュニケーションをとってくれる。時には冗談を言い合いながら、楽しく活動できる雰囲気がある。それは、この活動に限らず、組織やチームの結束力を高め、良い結果を生み出すことに繋がるのではないだろうか。

最後に

すごく当たり前のことなのだが、最後に。

物事を進める上では、人と人との繋がりが大切であり、その安心感は最大のパフォーマンスを発揮させることを改めて実感している。それは、自分自身や周りの成長、組織の発展にも繋がるはずだ。

これからも龍谷大学の魅力を発掘し、発信し続け、この大学に集う人々の潜在的な可



能性を輝かせるお手伝いができればと思う。

本当の最後に、本活動を応援（フォロー）くださっている学生・教職員の皆さま、学長室（広報）、瀬田事務部をはじめ運用メンバーの活動を見守ってくれている関係部署の皆さま、過去にアカウント運用を支えてくれた学生・職員みんな、そして現メンバーのみんなにこの場を借りて、御礼申し上げます。

この活動に関われてよかった。そう思っていることが、今後の私にとっての財産だ。



RU.SETA_CAMPUS

Instagram

龍谷大学 瀬田キャンパス

第87回の正解

★解けた人は答えを今年度中に宗教部・顕真館北側へお持ちください。
正解者には記念品をさしあげます。

- ① 親鸞は弟子一人ももたず候ふ。
- ② 念仏者は無碍の一道なり。
- ③ 慈悲に聖道・浄土のかはりめあり。
- ④ 善人なほもつて往生をとぐ、いはんや悪人をや。
- ⑤ 念仏は行者のために非行・非善なり。
- ⑥ 念仏には無義をもつて義とす。
- ⑦ 弥陀の本願には、老少・善悪のひとをえらばれず、ただ信心を要とすとしるべし。
- ⑧ 弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり。
- ⑨ 煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします。
- ⑩ 親鸞は父母の孝養のためとて、一辺にても念仏申したること、いまだ候はず。

答え：聖徳太子

法要・行事の

振り返り

法要・行事・宗教部の
取り組みの多くは
YOUTUBEで
ご覧になれます。



《二〇二四年》

十月二十一日(月) ご生誕法要 (瀬田樹心館)

「ようこそお寺へ！」

「信楽のあるお寺の村おこし」

西山 亮 (本学非常勤講師)

十月二十三日(水) 現代的課題と建学の精神 (オンライン)

「インド・ブッダガヤの生活で観た聖地と貧困

「苦しみと布施の精神」

清水良将 (インド・仏心寺 僧侶)

十月二十四日(木) 現代的課題と建学の精神

「トランスジェンダーをめぐる現実と課題

「トランスヘイトと法律をめぐる」

仲岡しゅん (弁護士)

十一月六日(水) 学長法話(深草顕真館) 入澤 崇 学長

十一月十一日(月) 現代的課題と建学の精神(オンライン)

「同性婚を巡る『結婚の自由をすべての人に』
訴訟の現在地」三輪晃義(弁護士)

十一月十五日(金) お逮夜法要(深草顕真館)

「受け継がれるもの」

北岑大至(本学非常勤講師)

十一月二十一日(木) ご生誕法要(瀬田樹心館)

「世界初!『田んぼラグビー』in京都・福知山」
誕生秘話―先進的地域農業の光と影―

坂本清彦(社会学部准教授)

十一月二十七日(水) 公開講演会(オンライン)

「節談説教を聞く」

桜庭尚吾(本願寺派布教使)

十二月三日(火) 学長法話(瀬田樹心館) 入澤 崇 学長

十二月五日(木) 龍谷シネマ(深草成就館)

「私たちの居場所」

フエリシテイ・チラック(映画監督)

十二月十二日(木) 全学人権講演会(深草和顔館)

「二十過ぎてても『普通の人』にならない苦痛

―新自由主義時代の若者たち―

中西新太郎(横浜市立大学名誉教授)

十二月十六日(月) ご命日法要(大宮本館)

「模倣と独立―漱石が見たインデペンデントの
人親鸞―」那須英勝(文学部教授)

《二〇二五年》

一月十五日(水) お逮夜法要(深草顕真館)

「傾聴の力…他人に、自分に、社会に」

ネイセン・慈心・ミシヤン(僧侶)

一月十五日(水) 公開講演会(深草成就館)

「歴史の忘却に抗して」

「ガザのジェノサイドと私たち」

岡 真理(早稲田大学教授)

四月十五日(火) お逮夜法要(深草顕真館)

「悪人が目当てなら・・・」

井上見淳(社会学部教授)

四月十六日(水) ご命日法要(大宮本館)

「社会の中の仏教。女性、教団(サンガ)、浄土…」

能仁正顕(文学部教授)

四月二十一日(月) ご生誕法要(瀬田樹心館)

「カルト問題を考える」

棚原正智(浄土真宗本願寺派布教使)

五月十五日(木) お逮夜法要(深草顕真館)

「常識のズレに気づくとき」

「取材記者として、そして寺の跡継ぎとして」

倉本葉生(フリーライター・本学文学研究科修了)

五月十六日(金) ご命日法要(大宮本館)

「世界に響きわたる「他力の信心」」

葛野洋明(実践真宗学研究科教授)

五月二十一日(水) 創立記念・降誕会法要(深草顕真館)

「信教の自由を守るために今考えるべきこと」

櫻井義秀(北海道大学大学院特任教授)

五月二十一日(水) 創立記念・降誕会法要(瀬田樹心館)

「滋賀県庁「死生懇話会」ドキュメントより」

行政が逃げずに考えた「死」、考える意味」

森 陽子(滋賀県総合企画部企画調整課参事)

六月十六日(月) ご命日法要(大宮本館)

「モンゴル帝国の真実

——人命重視の戦争と信仰尊重の統治——」

村岡 倫(文学部教授)

七月十五日(火) お建夜法要(深草顕真館)

「お経の言葉をいただいて」

吉田 哲(経済学部教授)

七月十六日(水) ご命日法要(大宮本館)

「価値」や「意味」はどこから来たのか

「道ありと信ず 得者を信ず」

中平了悟(文学部教授)

七月二十一日(月) ご生誕法要(瀬田樹心館)

「龍谷大学——礼拝堂の香り」

水野久代(京都大学人と社会の未来研究院研究員)

十月八日(水) 現代的課題と建学の精神(深草成就館)

「多様性をあたりまえに

——一本のドリンクから社会を変える——」

菅 大介(チェリオコーポレーション代表取締役社長)

安藤 徹(学長)

村田和代(副学長)

十月十五日(水) お逮夜法要(深草顕真館)

「お坊さんのいる病院、医療の現場で見たもの」

渡辺 有(臨床宗教師・ビハラー僧)

十月十六日(木) ご命日法要(大宮本館)

「葛飾北斎の仏伝図の謎」

岡本健資(文学部教授)

十月十八日(土) 報恩講(深草顕真館)

「現代社会における仏教の存在価値」

佐々木閑(花園大学特別教授)

十月十八日(土) 報恩講(瀬田樹心館)

「講談で聞く親鸞聖人伝」

旭堂南雲(講談師)

伝道部による法話

九月十九日(木) 五分間法話…岩田眞隆さん

講題…日々の気づき

九月二十六日(木) 漫才法話…二河白道(能島慈雲さん+河名淳哲さん)

講題…クイズ

十月三日(木) 五分間法話…平 一眞さん 講題…見返り

十月十一日(金) 顕真週間法話…友岡青慈さん

講題…逃げる私

十月十四日(月) 漫才法話…二河白道(能島慈雲さん+河名淳哲さん)

講題…常なる灯り

十月十五日(火) 顕真週間法話…長門慈海さん

講題…おやごころ

十月十六日(水) 顕真週間法話…廣本真昭さん

講題…年齢を超えて

十月十七日(木) 顕真週間法話…玉木興慈先生(伝道部長)

講題…無明長夜の灯炬

十月二十四日(木) 五分間法話…長門慈海さん

講題…ともにひとつのところであり

十月三十一日(木) 五分間法話…中川拓紀さん

講題…もろさず救う仏様

十一月七日(木) 五分間法話…廣本真昭さん 講題…むね

十一月二十一日(木) 五分間法話…大原義覚さん 講題…ふね

十一月二十八日(木) 五分間法話…藤海眞成さん

講題…求め続ける私

十二月五日(木) 五分間法話…友岡青慈さん

講題…のせてかならず

十二月十二日(木) 五分間法話…坂口慶信さん

講題…苦しみの中を生きる

十二月十九日(木) 五分間法話…川崎逸晟さん 講題…ブツダ

一月九日(木) 五分間法話…北條秀真さん 講題…気づくこと

四月十七日(木) 五分間法話…廣本真昭さん

講題…独生独死独去独来

四月二十四日(木) 五分間法話…平 一眞さん 講題…喚び声

五月一日(木) 五分間法話…岩田眞隆さん 講題…生老病死

五月八日(木) 五分間法話…坂口慶信さん

講題…悲しみに寄り添う仏さま

五月十二日(月) 降誕会法話…廣本真昭さん 講題…いわい

五月十三日(火) 降誕会法話…玉木興慈先生(伝道部長)

講題…如來の大悲にいだかれて

五月十四日(水) 降誕会法話…友岡青慈さん 講題…行き先

五月十五日(木) 降誕会法話…岩田眞隆さん 講題…生と死

五月十六日(金) 降誕会法話…平 一眞さん 講題…喚び声

五月十七日(土) 降誕会法話…河名淳哲さん

講題…仏の教えの中に生きる私

五月二十九日(木) 五分間法話…藤海眞成さん

講題…お念仏のご縁

六月五日(木) 五分間法話…川崎逸晟さん

講題…決して忘れない仏様

六月十二日(木) 五分間法話…友岡青慈さん

講題…つつみこまれるもの

六月十九日(木) 五分間法話…大原義覚さん

講題…見えないもの

六月二十六日(木) 五分間法話…北條秀真さん 講題…安心

七月三日(木) 五分間法話…廣本真昭さん 講題…育み

七月十日(木) 五分間法話…平 一眞さん 講題…執着

七月十七日(木) 五分間法話…坂口慶信さん 講題…安心

七月二十四日(木) 五分間法話…岩田眞隆さん 講題…卒業

【表紙写真解説】

守 宗真

(第四十回顕真週間実行委員会副委員長)

顕真週間マスコットキャラクター「ろうそくん」

皆さんこんにちは！私たちは龍谷大学学友会宗教局の第四十回顕真週間実行委員会です。

写真に写っているキャラクターは顕真週間実行委員会マスコットキャラクターの「ろうそくん」です。私たち顕真週間実行委員会は、龍谷大学の建学の精神や仏教についてもっと身近に感じてもらえるように、龍谷大学の報恩講の時期に一週間にわたって様々なイベントを行っています。特に念珠作りや脱出ゲームは毎年多くの方にご参加いただいております。ろうそくんは当委員会の広報部の一員としてSNSなどの活動に参加しています。有難いことにろうそくんは大変人気があり、キャンパス内に現れると一緒に写真を撮りたいと言ってくれる学生さんたちが多いです。今年は記念すべき第四十回目ということで、ろうそくんのぬいぐ



るみ、トートバッグ、ポーチ、飴など様々なグッズの制作を行いました。イベントに参加してぜひゲットしてくださいね！

ろうそくくんについて年齢や性別など様々な質問が来たりしますが、実は委員たちもろうそくくんについて分からない部分が多いんです。二〇二五年から始まったろうそくくんのTikTokで本人が話したりもしているので是非フォローして観てください！もっとうろくくんについて分かることがあるかも知れません。

頭真週間公式アカウント @ryukoku_kenshin ろうそくくん



X



Instagram



TikTok

『昭和二十年十二月平和を願う京都人の記憶..
なぜ京都に大空襲がないのか、もしかして原子爆弾か』
— 京都空襲 Part Two — (米国に残された記録) 伊藤忠夫 著



京都新聞出版センター
'25年6月2日
1,540円(税込み)

本書は、昭和二十年に実施された「米国戦略爆撃調査団 (USBS)」によるインタビュー調査報告書のうち、京都関係者の資料の翻刻を中心にまとめたものである。なお、同報告書は『Kyoto. Report No. 14e(19). Records of the U.S. Strategic Bombing Survey』として、国立国会図書館のインターネット上でも公開されている。

この調査は、戦略爆撃の効果を検証する目的で、一九四五年十月から十二月にかけて全国六十カ所で実施された。京都に関しては、一般市民九十名(男性三十一名(十六〜六十四歳)、女性五十九名(十六〜七十歳))を対象にインタビューが行われた。当時、日本では一般市民へのインタビューによる意識調査という手法は未発達であり、この調査は日本初の市民意識調査とされている。

インタビューは一人あたり約一時間半に及び、質問項目は三十三項目にわたる。内容は空襲や爆撃の体験を中心に、戦時下の暮らしや戦後の生活のあり方など多岐にわたっている。「戦時中の士気」



講談社

'25年7月8日

2,090円（税込み）

今年は戦後八十年の節目の年である。本書は、戦時中の読書について、「子供」「勤労青年」「銃後女性」「エリート学生」といった各層に対する

『戦下の読書…統制と抵抗のはざままで』 和田敦彦 著

著者が指摘するように、本書は「日本語↓英語↓日本語」と二度の翻訳を経ており、当初の京都市民のインタビュ―内容が忠実に再現されているとは言い難い。しかし、それでも本書を通じて、当時の無防備・無抵抗の京都市民の戦争の記憶を辿ることは、現代における平和の課題を考える上で大きな示唆を与えてくれるだろう。

【村上孝弘】

に関する質問では、京都新聞関係者が「京都の人は最後まで空襲から免れると感じていました」と答えている。確かに京都は他都市のような大空襲の被害を受けなかったが、原子爆弾の投下候補地であったことは事実であり、市民の意識と現実には大きな乖離があった。著者は一九四九年生まれの戦後世代であり、直接戦争を体験した世代ではない。しかし、だからこそ戦時下や戦後の記録を掘り起こし、伝えることの重要性を強く認識していると思われる。戦後八十年が経過し、戦争を体験した世代は年々減少している。戦時下の記憶が薄れつつある現代において、こうした記録の重要性はますます高まっている。

当時の読書調査をもとに、それぞれの実態を読み解こうとする試みである。

一般的にはこの時代、国民精神総動員運動や国家総動員法の成立により思想統制が進み、国民の思想は同一方向へと誘導され、読書傾向も画一化されていたと考えられている。しかし本書では、様々な読書調査の紹介を通じて読書の多様性を確認することで、思想統制が当時の読者の内面に必ずしも容易に根付いていたわけではないという事実が、淡々と記されている。

当時の学生の読書の実態については、第四章「ファシズムとエリート学生との回路―愛と認識との行方」で詳述されている。この時代に学生自身が読書傾向調査を行っていたことに注目し、「外からの管理・統制を受けていた学生たちが、自らの手で自らを管理するようになっていく点」が指摘されている。

また、ファシズムの思想とは一見無関係と思われる『善の研究』についても、「戦時下の民族主義やその指導・統制の土台となり得た」とされている。さらに、『万葉集』をはじめとする古典についても、「古代歌謡に共感・感動できるということは、民族や精神の永続性を受け入れていく回路ともなる」とし、「読書を戦争と相いれない行為、あるいはそこからの逃避としてのみ見なすのではなく、戦争へと踏み出すための営為としても、見直してみるべきではなかろうか」と結論づけている。

個々の読書体験が、結果として上からの思想統制と同様の効果をもたらす可能性についても、「読書は人を誤らせることも、だますこともあれば、理不尽な思想を信奉し、強制する手立てともなる」

と述べられており、戦時下の読書に対する本質的な問いが投げかけられている。

あらためて、当時の様々な読書傾向調査を紐解くことにより、「戦時下の思想や指導・統制に読者がどう抗い、あるいはそれを逆に信奉・協力したのか」を検討することは、現代にも通じる読書の課題といえるだろう。

【村上孝弘】

『となりのとらんす少女ちゃん』とら少 著



在野社
'25年5月9日
1,815円（税込み）

トランスジェンダーと一口に言っても、全員が同じ体験をしているわけではありません。

人の数だけ人生があるように、トランスジェンダーの数だけ人生があります。

本書には四つの「とらんすちゃん」の物語が収録されており、それぞれの主人公が存在しています。主人公たちの年齢や環境はばらばらで、同じ物語はひとつとしてありません。

本書を読んで、自分の知らない世界の話だな…と思う人もいるかもしれませんが。私のことだ…と共感する人もいるかもしれません。もしかしたら自分の友達、いつも同じ通勤電車に乗っているあの人の隣のクラスの話かもしれない。自分が見ている風景の中に「と

らんすちゃん」の物語があるということを本書は教えてくれました。

二〇二六年秋に劇場公開も予定している話題の一冊。

漫画なので気軽に読んでみてほしいと思います。

【宗教部 猪越】

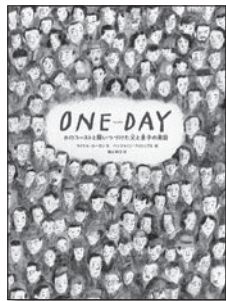
『ONE DAY』

ホロコーストと闘いつづけた父と息子の実話』

マイケル・ローゼン 著

ベンジャミン・フィリップス イラスト

横山和江 訳



鈴木出版

'25年 7月 2日

2,200円 (税込み)

ホロコーストといえば、映画「シンドラーのリスト」や杉原千畝の「命のビザ」などで、なんとなく知っていたけど、この本は、ナチスによっ

て迫害を受けた側の人々の実際の話だ。ユダヤの人をはじめとして、たくさんの人が強制的に収監され、毎日多くの人々がどこかへ連れていかれる。どこに行くのかわからないけど、わかっているのは二度と戻ってこないということ。明日の希望を持つことすら許されない環境で、「その日をきりぬいたら、つぎの日をきりぬける。その日、一日だけ。その日を終えたら、またつぎの一日を」というメッセージは、平和ボケした生活をしている私に、「目を覚ませ！」と訴えてくるようだ。もう八十年も前のこと、でもたった八十年前のこと。

今、日本で、そして世界で、また同じことが繰り返されようとしている。多様性を否定し自己中心の風潮がひろまっているのは、とても悲しいし、このままではいけないと思う。絵本だけれど、子どもだけではなく、年齢や住んでいる国や思想信条にかかわらず、すべての人に読んでほしい。いつか、アウシュビッツ・ビルケナウの博物館に行ってみようと思う。

【宗教部 安食】

編集

後記

おかげさまで、今年も宗教部報を発行することができました。執筆や編集にかかわってくださった方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

表紙の「ろうそくくん」めっちゃかわいいですよね。ろうそくんは、顕真週間実行委員会のマスコットキャラクターです。顕真週間は、顕真館が建てられた一九六九年にはじまり、今年で四十回目を迎えました。おめでとうございます。今年も、報恩講に向けてさまざまなイベントが開催されましたね。みなさん参加しましたか？

ところで、宗教部の活動は、たくさんの学生や教職員、卒業生、そのほかたくさんの人々に支えられています。たとえば、毎日の朝の勤行では、伝道部の学生が毎週木曜日に五分間法話、報恩講や降誕会の前には十五分の法話をしてくださいます。

今号は、その中から昨年のおこなわれた長門慈海さんの「おやごころ」という法話を掲載しました。慈海さんは、いつも笑顔で、仲間たちと和やかな時間を過ごす様子が印象的でした。しかし今年の三月に急逝され、今はその姿を見ることができません。慈しみの光に包まれて、慈海さんからいただいたご縁を大切にしていきたいと思います。

合掌

YouTube



X



Facebook



Instagram





SETA CAMPUS



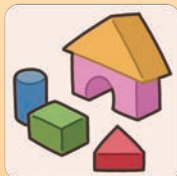
絵しりとり

イラストをみて絵しりとりを完成させましょう

り
ゆ
う
こ
く



()



()



()



()



()



()



()



()



()

自分で描いてみよう